

文部科学省 情報ひろば 『サイエンスカフェ』

主催：日本学術会議、文部科学省

参加無料です

毎月第4金曜日の夜にサイエンスカフェを定期開催しておりますが、今回は、第4金曜日が祝日ですので、一日早く第4木曜日の開催となります。

平成23年度・第8回を、次のとおり開催いたしますので、テーマに少しでもご興味がありましたら、お気軽にご参加ください。

日 時	平成23年12月22日（木） 19：00～20：30
場 所	文部科学省情報ひろばラウンジ（旧庁舎1階）
主 催	日本学術会議、文部科学省
講 師	永 井 泰 樹（日本原子力研究開発機構客員研究員）
ファシリテータ	大 堀 菜 摘 子（日本科学未来館科学コミュニケーター）
テーマ	「核医学用放射性物質の新しい生成法」

定 員	30名
参加費	無 料



がん、心臓疾患、脳疾患の核医学診断等や研究、産業、等幅広い分野で利用されている放射性物質(RI)の多くは輸入に頼っています。特に、半減期が66時間のRIのモリブデン99 (^{99}Mo) から生まれるテクネチウム99 (^{99}Tc) は、骨、甲状腺、脳血流、心筋の画像診断に、我が国で年間90万件使用され、核医学診断全体の85%を占めています。

ところが、海外の ^{99}Mo 製造用原子炉が、トラブルで長期間運転が停止したため、 ^{99}Mo が世界的に不足し、大問題となりました。又、これら原子炉は、高濃縮ウランを使用しており、核不拡散の観点から、世界の懸念事項です。そこで、将来にわたり ^{99}Mo を安定に確保すべく、高濃縮ウランを用いない生成法の模索・検討が世界中で進められています。我が国は、世界に受容される生成方法を開発し、国内製造の道を拓くと共に、世界の ^{99}Mo の安定確保に貢献していく事は重要です。

講演では、産官学共同で開発中の、加速器中性子を用いた新しいRI生成法とその利用について、特に ^{99}Mo に焦点をあてて紹介致します。